

## 平成22年度 第2回 鳥取市総合企画委員会（議事概要）

- 日 時 平成22年7月7日（水）午後1時30分～3時30分
- 場 所 鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室
- 出席委員 宍岐文彦、池原範雄、下石義忠、佐々木紀久子、徳田昌子、徳中由美子  
西村賀代、西村陽子、福島 明、福山裕正、藤縄匡伸、藤沼康実、細井和江、  
水野由久、道上正規、森原昌人、森本幸子、吉弘憲介（18名）（五十音順、  
敬称略）
- 欠席委員 尾崎直美、近藤儀徳（2名）（五十音順、敬称略）
- 鳥 取 市 市長、副市長ほか各部長（監）、行財政改革課（事務局）

### 1. 開会（田中行財政改革課課長）

### 2. 市長あいさつ

<要旨>

- 総合企画委員会で今年度中に新しい総合計画を立てるということで議論を進めており、本日は基本構想（素案）について意見を頂くことが主眼である。
- 第9次総合計画は「ひとを大切にするまち」という理念を掲げ、これまでの将来像は保ち、新しくリーディングプロジェクトや基本方針1～3などを盛り込み、鳥取市執行部内で議論を重ねてまとめてきたが、さらに総合企画委員会での議論、市民からの意見等をまとめながら進めていきたい。ぜひとも夢のある総合計画にしたい。鳥取市が目指すべき方向性や事柄を定めた上で、きりと光る内容を盛り込むこともご検討頂きたい。
- ナインエリアマップは、佐々木えるごさんにご登場頂き、鳥取市の9エリアについて紹介するものである。冊子としても3万部ほど発行するが、それぞれのエリアごとに抜き出したものを1万部ずつ発行し、鳥取市を紹介していこうとしている。
- 鳥取自動車道が開通し、高速道路料金値下げ等の要因がある中で、多くの方が鳥取市を訪れて頂けると考えている。砂の美術館の4月29日開幕から現在までの入場者数は、約12万4千人である。しゃんしゃん祭もあり、この夏さらにブレイクするのではないかと期待している。
- 地域経済活性化に繋がるような交流人口の増加に引き続き努力していきたい。山陰海岸ジオパークの取組みもその一環になると考えている。
- 鳥取市雇用創造戦略方針として、4年間で2千人以上の新たな雇用を創造すると発表した。具体的な方針を打ち出して今後実らせていきたい。
- 立ち止まっているわけにはいかない、前へ進もうというのが鳥取市の思いである。交通

条件の整備や地域資源を磨くという新しい条件の変化に加え、高齢化、中山間地域対策など難しい問題もあるが、それを乗り越えて前進し、持続的な発展を遂げていく地域にしていきたい。

### 3. 委員長あいさつ

<要旨>

- 第2回総合企画委員会にご出席頂き、御礼申し上げます。
- 総合計画を立てるにあたり、鳥取市全体の様々な観点から多角的、多面的に検討していくことが大事であり、全分野を網羅する必要がある。そうすると非常に網羅的であるが迫力がないものになってしまうが、全体をカバーすることも大事な要素であるので基本として考えていきたい。
- 総合計画は10年間を見通して5年に1回策定されるが、第9次総合計画が我々が誇りを持つことができ、市民の誇りであるものになることを願う。
- 財源が限られてくる現状で、網羅的に取り組む中でも選択と集中が必要になってくる。知恵を出し、民間の力を借りながら成就する方向を目指せば、市民の誇りに繋がると考える。

### 4. 議事（進行：委員長）

#### （1）第9次鳥取市総合計画基本構想（素案）について

##### 事務局より説明（国森行財政改革課参事）

- 第9次鳥取市総合計画基本構想（素案）については、内部で検討を重ねてたたき上げたものである。前回の総合企画委員会の資料と若干変更している部分があり、委員より頂いた意見も踏まえて説明をしていく。
- まず初めに、大きく変更した箇所を目次で確認させて頂く。  
第3章「人口と財政の長期的な概要と見通し」について、人口減少が進むことは市政において重要な点であり、財政面においても合併後5年が経過し非常に厳しいものがあるということで、人口と財政問題に触れている。  
第4章「時代の潮流とまちづくりの課題」においては社会潮流に触れており、前回の資料では6項目程度だったが、今回は「②急がれる地域経済の活性化」ということで経済面にも言及している。また「⑨市民が住みたいまち」として、昨年行った市民アンケートの結果を加えている。
- 第1章 計画策定の主旨  
合併後5年が経過する中で、社会の潮流は非常に変化している。社会潮流の変化としては、人口問題、社会構造の変化、経済の低迷や環境・エネルギー問題などが挙げられる。情報通信分野でも基盤整備が進み、ICTの利活用の問題が出てくる。  
都市経営機能を強化したいということで、第9次総合計画では市民の積極的かつ建設

的な意見を尊重しながら策定したい。

○ 第2章 計画の役割と構成

計画の進行管理については、成果を重視した進行管理をしたい為、今後策定する基本計画、実施計画に数値目標を掲げた上で進めていきたい。

○ 第3章 人口と財政の長期的な概要と見通し

人口問題は重点的に取り組むべき問題として、具体的に基本計画や実施計画の中に出てくると考える。長期財政計画については、平成27年度から始まる交付税の合併算定替の段階的な縮減により、非常に厳しい財政状況になることが予想される。この2点については今後具体的に盛り込んでいきたい。

○ 体系について

一番下の基本方針1～3は計画の基盤づくりを支えるものである。まちづくりの理念には「ひとを大切にすまちづくり」という市長の理念を基本理念としている。将来像については、夢のあるもの、市民がイメージしやすいものを検討していきたい。またリーディングプロジェクトに重点的に推進していくべき事業を入れていく。まちづくりの目標については、前回の委員会で抽象的ではないかという意見を頂いたので詳しく表現している。政策＝基本構想、施策・リーディングプロジェクト＝基本計画にあたるが、基本計画については、各担当課にヒアリングを行い具体的につめていくので若干変わってくることをご認識頂きたい。

○ 第4章 時代の潮流とまちづくりの課題

- ① 人口問題について、若者の大都市への流出が少子高齢化に拍車をかけているという認識のもと、若者の定住、高齢者をはじめ誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めたい。
- ② 急がれる地域経済の活性化について、健康・福祉・環境など各分野に経済戦略を施し、本市でも地域経済活性化戦略、雇用創造戦略方針を掲げ取り組んでいく。
- ③ 環境問題について、日常生活の中での環境問題意識を高めていきたい。
- ④ 危機管理について、自助、共助を共通認識として、安全安心に暮らせる地域づくりを進めていきたい。
- ⑤ 新たな価値観について、ライフスタイルの多様化が進む中で地域コミュニティの希薄化という問題が挙げられる。
- ⑥ 競争と連携によるグローバル化について、鳥取自動車道の開通に伴い、関西圏や山陽との交流が活発になる。また境港のDBSクルーズ就航により環日本海を視野に入れ、交流のグローバル化が進んでいく。
- ⑦ 情報通信の高度化について、今後さらに情報交流や行政情報の手段としてインターネット、携帯電話が重要な手段となっていく。
- ⑧ 自治体に求められる自立と改革について、行財政改革の観点、財政基盤の確立、市民との協働の推進を踏まえて、自立した都市経営を築いていく。

- ⑨ 市民アンケートによる市民が住みたいまちについて、鳥取市の将来像について上位のものを記載しており、福祉の充実した人に優しい都市、自然や環境に優しいやすらぎのある環境先進都市などが挙げられている。
- 市民アンケートの中で優先すべき施策に挙げられたものには、雇用・勤労福祉の対策、高齢者・少子化対策、道路整備、中心市街地活性化対策などがある。
  - 「ひとを大切にするまちを目指して」と掲げ、基本理念と将来像を示している。基本理念は、本市をすべての人に安心して生活を楽しむことができるまちにすること、市民自らが地域を高めようとするのが不可欠である。将来像は第8次総合計画から引継ぎ、「人が輝きまちがきらめく快適環境都市鳥取」としている。このあたりは委員の皆様から意見を頂き、検討していきたい。
  - 基本理念、将来像を踏まえた上で5つのまちづくりの目標を掲げた。それぞれの目標について、政策を示している。
  - 20ページ以降については、いろいろな指標を入れたいが、現在推計中であるので整次第グラフ等で示したい。
  - 土地利用については、鳥取自動車道の開通に伴い河原工業団地、山陰海岸ジオパークについて書き加えている。公有地の利活用にも目を向けていきたい。
  - 25ページ以降は基本計画部分であるが、リーディングプロジェクトとして重点推進施策をだしていきたい。
  - 最終ページは、基本計画の標準的なフォーマットである。

## <質疑・応答>

### ○委員長

本日のメインテーマとして、まちづくりの目標や政策、施策が的を射たものかどうかを議論していく。総花的に取り上げていく必要があるが、重点的に取り組むべき問題についても議論したい。社会潮流について、一番変わったと感じているのは人口減少であると思う。合併地域の人口減少は顕著であるし、旧市内においても高齢化が進み過疎化する傾向がある。それと同時に、経済が右肩上がりに伸びることは期待できない為、税収も増えず問題である。夢を実現する為にはどの分野を強化するか、その手法はどうかという点で、我々の力を結集して議論していきたい。

### ○委員（事前意見書）

- ・ 市民からの積極的かつ建設的な意見とあるが、建設的な意見とは何か。
- ・ 合併による普通交付税算定上の不利益について、詳しく説明してほしい。
- ・ 「鳥取」、「とっとり」の表記を統一してほしい。私としては柔らかい印象のひらがなで統一してほしいという気持ちを持っている。

○国森行財政改革課参事

建設的な意見とは、市民が、市の課題や問題点を踏まえながら、将来の鳥取市がより一層発展するような意見を頂くことである。

普通交付税の合併算定について、合併により旧鳥取市と周辺8町村が合併したが、合併後10年間は8町村が合併せず存続したと仮定して交付税が交付される。10年経過した平成27年以降は、鳥取市ひとつとして計算され、段階的に縮減されていく。現在、鳥取市には普通交付税として約200億円が国から交付されているが、平成32年には約160億円へ縮減される。

○委員長

国家財政が逼迫している中で、将来的にはより厳しくなるだろう。

鳥取の表記の問題はどうか。

○行財政改革課課長

前回「人が輝き まちがきらめく 快適・環境都市 鳥取」という表現がどうかというご提案も頂いた。文脈の中で表記の違いはあるだろうが、将来像の表現がどうかという部分も含めてご議論頂きたい。

○委員長

「鳥取」とすると、県と市の使い分けの問題が生じる。とっとり総研を例に挙げると、鳥取県全体を意味するというのでひらがなで表記しているが、このあたりは委員会と事務局とで考えていこう。

○委員

総合計画は総花的になりがちだが、委員長が言われたとおり、ある程度選択と集中が必要だと考える。鳥取市が現在抱える課題や弱点をいかに克服するか、良いところをどう伸ばすかの2点が重要である。人口減少が地域衰退の原因になるので、総合計画として定住人口をどうするかという基本姿勢が必要である。減少に歯止めをかけるのであれば、子育て、医療福祉、雇用などの様々な分野で人口増加に向けた目標が立てられるのではないか。また高齢化が急速に進む中で、明るいイメージの高齢化社会にするにはどうすればよいか。素案にはすばらしいことが書いてあるが、「20万都市を復活させよう」、「お年寄りが元気な長寿社会をつくろう」といった目的の方が計画に具体性が出るのではないか。

○委員

第9次総合計画をつめる為には、財源の確立が非常に重要である。外に向けた取組みが弱いのではないか。例を挙げると、鳥取県の公共事業は4～6割縮減されている。中央に働きかけていくことが重要である。

○委員長

国家プロジェクトのような大型プロジェクトを計画の中に盛り込んでどうかという意味か。

○委員

そうではなく、財政健全化のために国へ財政支援の働きかけが必要だということ。

○委員長

国へ働きかけるにしても、大型プロジェクトを提案した上で助成してほしいというかたちにはしないと難しいのではないか。

○委員

外に向けた働きかけを今後考えて欲しいという思いである。

○委員

自主財源を増やすことが必要不可欠であるが、どう自主財源を増やすかと考えると、税収の増しか考えられない。そのためには、人口増加、企業誘致が必要である。今の基本計画では、人口増加に対して何をターゲットに、誰を呼び込み、どのように住んでもらうかが出てきていない。

○委員長

日本の人口は2050年には9千万人になるという予想が出ているが、そういう状況を認識した上で議論をしていきたい。人口増加については非常に難しいが、高齢者がいきいきと住みやすいまちづくりは実現可能だと考えらる。

○委員

委員長のおっしゃるとおり、日本全体の人口が減少する中で鳥取の人口減少を食い止めるというのは非常に難しい。人口増加のためには、欧米諸国が選択した移民を受け入れるという方策しかない。移民を受け入れてでも人口を確保するかという選択が必要となる。もう1点、高齢化社会になり住んでいる人に優しい社会をつくることが重要であるが、若い人にとってそういった社会が魅力的かどうかは別の議論である。

企業進出の際に、他自治体より短期間で準備が整う、融資が受けやすいなど魅力的な投資環境をつくることが重要である。財政面では、現状の公会計制度ではなく、複式簿記化、企業会計を取り入れるなど将来負担を見込んで財政計画を立てることが重要である。企業会計の専門家は多いので、自治体の財政に関心を持つ人も増えるだろう。新しい会計制度を取り入れるのもひとつの論点になるのではないか。

○委員

人口については、定住人口を増やすことが最善であるが非常に難しい。当面は、観光を中心に流入人口を増やしたい。通過ではなく滞在して頂くような流入人口を増やすためには、より観光に力を入れるべき。鳥取にはいろいろな資源があるのに、活かせてい

ない。一度、鳥取を訪れてもらえば、定住者を増やすきっかけになる。問題としては鳥取市民は遠慮深く、ホスピタリティが極めて不足している点があるが、意識を変えていけば流入人口の増加、ひいては定住人口増加に繋がる。定住人口増加の絶対条件として、医療と文化が挙げられる。

○委員

鳥取は「お年寄りに優しいまち」であると日本全国に広めればいいと思う。定年後の方に、鳥取は住みよいまちだとアピールしてお年寄りが増えると、若い方達に対しても介護・医療の仕事が増えるのではないか。鳥取は小さくて住みよいまちなので、利便性を活かせば都会から鳥取へ来たいという年配の方は多い。

○委員

お年寄りが増えると医療費が増え負担も増えるので、生産人口も増やしバランスよくしていくのがいいのではないか。医療については、東部圏域の計画も進行しているので整合性を持って取り組まねばならない。いろいろな面でサービスの向上が必要である。

○委員

多岐の分野にわたる総合計画であるから素案はおおまかにはこれでよいが、専門家がそれぞれメリットを出してメリハリをつけていく作業が必要である。UI会ではUIターナーが活動をしている。用瀬で、遊休農地を利用し農作物を作り関西で販売する取組みを行っているので、上手くいけば佐治などにも広げていきたい。遊休農地や公民館を活用し、関西との交流に意識を向ければ関西から必ず来てくれる。

○委員長

古民家や空家について、市の取組みも大切だが商工会議所も積極的に取り組むべき。

○委員

どこの都市も同じような問題を抱えていると思うが、地域間競争に勝っていかなければいくら鳥取市でいいものをつくったとしても、地域主権・地方分権の中で鳥取は埋没してしまう可能性がある。移住・定住者を惹きつける特徴のあるまちづくりをしていかなければいけない。地域を動かすような総合計画をつくろうと考えると、鳥取らしさを出すことが大切。鳥取にしかない特色を活かしてまちづくりに特徴をつけていくことが重要なポイントではないか。

○委員

予算的にも厳しくなる中で、本当に実施できる計画なのかという裏付けが見えてこない。責任を持って、10年後にきちんと達成できるように行政的なフォローアップをどのようにしていくのかを表明した方がわかりやすい。

○委員長

今日の議論は基本構想として骨格を見ているので、ある程度総花的にやりながら、その中で目玉をつくっていく必要がある。

○委員

住みよいまちづくりでいろいろな施策が示されているが、その中で安全安心なまちづくりが重要であるとする。生命財産を守るという大きな目的で、防犯体制などいろいろ書いてあるが、角度を変えると、安全安心というひとつの方向性が示されるのではないか。また、せつかく鳥取自動車道開通後に策定する総合計画であるから、関西圏との産業・人・観光の交流を大きな目標として立てることができるのではないか。

○委員

安全安心なまちづくりについて、私は現在、車が使用できない状況にあるが、非常に不便さを感じる。鳥取駅からジャスコ行きのバスに乗ったところ、遠回りでお年寄りにとっては不便であった。鳥取駅近くの徒歩圏内に生活必需品が購入できるような場所があってほしい。

○委員長

鳥取市は高齢者社会の先進県であるが、お年寄りになり車が運転できなくなった場合、非常に大変である。市民の足を確保するのが、まちの構造をつくる一番大きな要素である。鉄道との関連を持たせてバスを整備するには、駅前がひとつのキーとなる。まったく違ったコンセプトで鳥取市のまちをつくり直そうと取り組めば、まちづくりのモデルが全国に売れると思う。交通政策を含めて、お年寄りパワーを活かしていきたい。

○委員

鳥取の中でも各地域によって高齢者が多い、子どもが多いなど条件がちがう中で、全体を押し上げようと考えたら一律の対応では間に合わない。地域性を考えて、きめ細かく取り組まなければならない。

○委員

人口を増やすことも大切だが、現在住んでいる方が出ていかないような対策も必要である。人がよく自然環境にも恵まれているが、魅力に欠けると感じる。

## (2) 報告

### 市民参画事業について

#### 事務局より説明（国森行財政改革課参事）

- 資料2に市民参画事業の一覧として1～11まで、市民意見募集の方法を書いている。



<意見>

○委員長

いろいろな団体で第9次総合計画について議論がなされ、その結果が原案の中に取り込まれ、この委員会でも議論されるという考えでよいか。

○国森行財政改革課参事

頂いた意見は、この委員会で検討頂く。

○委員長

いろいろな委員会やグループがあるので、時間が許せば皆さんも参加頂いて、またこの委員会でも発表頂けたらと思う。

○委員

自治連の提言書の期限が7月末までとなっているが変更はないか。

○国森行財政改革課参事

8月中旬までの期限ということをお願いしたい。

## 5. その他

○国森行財政改革課参事

次回開催は、9月上旬を予定している。この基本構想のご指摘あった点を修正したものの、基本計画を出そうと考えているのでご審議お願いしたい。

○委員長

今回は基本構想として骨格部分を審議したわけだが、もう少し強弱をつけた方がいいといったご意見もあった。そのあたりは次の基本計画の部分で議論が出てくるだろう。文言についても、もう少し皆様からご意見頂きたい。

## 6. 閉会

○田中行財政改革課課長

本日はご議論ありがとうございました。頂いたご意見は基本構想の部分で反映していきたい。今後、具体的に基本計画・リーディングプロジェクトの中で今日頂いたご意見を踏まえて、工夫して作成していきたい。委員の皆様にはお手数をおかけしますが、逐一ご意見を頂ければと思う。ありがとうございました。